

税と共に生きる

清水町立清水中学校 3年 野垣 真由佳

私は、心臓に基礎疾患を持っている。生まれてから間もないころに手術をした。母が、生後六ヶ月だった私の、母乳の飲み具合と、尿の排出量の異変に気付き、私を病院へ連れていってくれた。私は今回初めて、そのことを聞くことができた。私が今、こうして生きているのは、この時に母が早く病院へ連れていってくれたからなんだと思い、感謝の気持ちでいっぱいになった。

私は今でも、心臓の動きに異変がないかを検査し、飲み薬をもらうために、三ヶ月に一回、その手術を受けた病院にかよっている。しかし、こんなに毎回検査などをしていて、どのくらいお金がかかっているのか心配になり、父に聞いてみた。すると父は、

「中学三年生までは受診料は、国の税金で賄ってもらえるんだよ。だから大丈夫だよ。」

と言ってくれた。私はそれに、安心したのと同時に、興味を持ち、そのことについて、調べてみた。それは「就学児医療費助成制度」というもので、小学一年生から中学三年生は健康保険の適用される医療費を市町村が負担してくれるというものだ。ちなみに私は清水町に住んでいるため、十八歳まで、医療費を支えてもらえる。税金はとても素晴らしい仕組みなんだということを私はそれを知って思った。

税金という制度が充実していないある国では、救急車を呼ぶのに九万円ものお金がかかるという。そのお金を理由に、救急車を呼べず、命を落とす人もいる。私は、そんな人が一人でも減ってほしいと思う。私のように、治療を安心して続けていられるのも、当たり前的事ではないのだと、改めて、この作文を書き知ることができた。私は国に支えられて生きている。そう感じた。

しかし、現在の日本では、少子高齢化社会のため、働き手が減り、高齢者が増えている。二〇〇〇年には、高齢者一人に対して、働く人が三・六人だったのだが、その比が二〇六五年には、高齢者一人に対し、働く人が一・二人になってしまうと予想されている。これではいずれ、遠くない未来、税の制度が崩れて無くなってしまわないかと不安になった。この、人々の生活を支えてくれる素敵な制度が少しでも長く続いてほしい。

私たちが学校で使う教科書や図書館の本があること、そして医療費や、私たちの生活を守ってくれる警察官や消防隊員さん、お医者さん、影ながら私たちの町をきれいに保ってくれるごみ処理員さんがいることは当たり前ではない。みんなが払っている税金は必ず、誰かを助けるために、国を豊かにするために使われている。だから、税は大切なのだ。